

## 大峰山脈「天川川合から弥山、八経ガ岳」

～ スノーモンスターに逢いたい

2013年12月28日(土)～30日(月)

メンバー L：和利(記)、SL：やまたくお、気象：ざ・料理人、食料：クボタ、記録：高木Y、高木A

---

12/27(金) 晴れ

東名阪国道、針インターから奈良県吉野町に入る。国道309号線を天川村に向かうが、あちこちで道路が凍結していて慎重に走る。途中から雪道になり、更に緊張が高まる。

事前に電話確認しておいた天川村役場の駐車場に駐車して仮眠。

12/28(土) 曇り時々雪

役場の指示により、車のフロントに登山日程、ルート、連絡先、人数、所属などを記入したメモを置き、出発。積雪は10cm程度。計画書投函ポストなし。踏み跡なし。



天川村役場駐車場



ワカンを付けて黙々と登る

標高約600mの登山口から1115mの陣ノ峯まで標高差500mの急登を登る。距離にして2km、2時間30分も費やしてしまった。久しぶりの雪道、フル装備での登りはかなり脚にくる。

陣ノ峯を越え、林道交差点を越えてワカンを装着。ますます脚に堪える。

このペースでは、とても狼平避難小屋までは届かない。

目標を栃尾辻の避難小屋に変更して黙々と登る。地形図ではほぼ直線であるが、小さな尾根が波状してルートが分かり難い。栃尾辻避難小屋が見つからず、高木がザックを置いて偵察に出る。

ほどなく見つけて一安心、攀った脚を引きずって小屋に到着。

後から来る人には申し訳ないが、小屋内を雪で整地してジャンボ TENT を張る。

小屋は隙間が無いほどいっぱいになってしまった。

食担初めてのクボタ君の鍋で大いに盛り上がり、18時消灯。冬は夜が長い。



栲尾辻避難小屋から出発

12月29日(日) 曇り時々雪

昨日からの雪が降り続けている。昨日の午後遅くに着いた登山者二人は少し離れた場所に幕営しているがまだ動きが無い。単独の登山者はそのまま進んだようだからうじてトレースが残っている。

今日の予定は空身で弥山を目指す。小屋からいきなりの急登。トレースをたよりにラッセルを交代で進む。十分に休養したため皆元気で、ラッセルを楽しんでいる。

しばらくして単独登山者が下りてきた。なめり坂の手前でビバークして、朝少し進んだが雪が深くて断念して下りてきたとのこと。この積雪では単独では無理なようだ。

テントの二人も登ってこない。山中に我々6人だけとなってしまった。



樹氷の中を進む高木YとA



やまたくお先頭でよじ登る

アップダウンが続き、進行方向がわからなくなる。尾根を間違えるととんでもないことになってしまう。地形図と方向を確かめて頂仙岳を目指す。夏道は右にトラバースしているが積雪期は直登する。雪が柔らかくて崩れて登れない。

頂仙岳直前でモンスターに道を阻まれてしまう。クボタが樹氷の下を潜り抜けて道を開き、頂仙岳 1717.6mの標識を見つけた。



頂仙岳で喜ぶクボタ



頂仙岳山頂にて記念写真

ここから狼平までは下りとなり、これ以上進んでも弥山には届きそうもないため、頂仙岳で打ち切りとした。

残念ではあるが下山を開始、下りは早くふかふかの斜面を泳ぐように駆け下りた。



雪をまとった木々

12月30日(月) 雪後晴れ

最終日、まだ雪が舞っている。

登りで6時間、下りは半分と見込んで下山開始。昨日のトレースは消えかかっている、登りよりも雪が深い。

陣ノ峯までワカンを付けて下山する。陣ノ峯を越えて、やっと登山者が現れた。ワカンを持ってなく、行けるところまでと登っていった。

昨年のリベンジにて大峰山脈にトライした。今回は6人と大所帯でチャレンジしたが、思いの外雪が深く、目標の弥山・八経ガ岳には届かず、ベースキャンプ予定の狼平避難小屋にも到達できなかった。しかし、目的の一つである「スノーモンスター」には遭遇することができ、奈良の山の奥深さを感じた三日間であった。

コースタイム

12/28 天川村役場P (8:10) - 陣ノ峯 (10:35) - (14:10) 栢尾辻避難小屋

12/29 避難小屋 (6:55) - 頂仙岳 (10:52) - (13:01) 避難小屋

12/30 小屋(6:40) - 陣ノ峯 (8:30) - (9:45)P

以上